

平成27年度 学校評価

武蔵越生高等学校 (平成28年6月22日)

目指す学校像	国際社会のよき形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校。		学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。
本年度の重点目標	1 学力の向上と進路の保障 2 礼儀正しい態度の養成 3 クラブ活動の育成強化 4 地域との連携強化	学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させるよう、生徒の実態にあった指導を研究し、わかりやすい授業の確立を図る。 高校生として基本的生活習慣の確立をはかり、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。 生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図るためクラブ活動を重視し育成強化していく。 地域の文化の主体として信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一助を担う。	

年度当初				最終評価				
番号	評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	28年度への課題と改善策	学校関係者評価	
1	生徒一人ひとりを大切に、能力・適性を生かす。	生徒の学力層の幅が広い。週一回教科会を開き、授業改善に努めている。適性検査や学期ごとの統一テストを実施し、生徒理解の一助としている。	統一試験の事前指導、事後指導の充実を図る。授業時数確保の土曜授業導入6年目を迎えての成果・方法を再検討する。教職員研修においてテーマを絞り討議する。	教育理念の徹底は図れたか。統一試験への事前事後指導、昨年度の得点比較はどうか。講座、能率手帳スコラライト、受験サプリに対する生徒のニーズ、満足度、成果、方法の検討はされたか。教職員研修の成果はどうか。	○家庭学習の習慣化については、教科ごとに検討したりしているが決定打に至っていない。 ○統一テストについても事前指導は取り組めたものの結果には繋がっていない。取り組ませ方、意欲醸成について研究が必要である。 ○教務システムについては28年度より導入。	B	○主体的学習習慣の確立のために、新コース制の研究、スコラライトの活用、日常の授業研究に取り組む。 ○定期試験、統一テスト、外部模試等の事後指導並びに家庭学習習慣の確立を図り更なる学力アップを図る。 ○学習指導の第一歩は生徒理解であることを念頭においた取り組みをする。 ○スタディサプリの活用や積極的外部研修で教育力を高める。	○教務システム導入に踏み切ったのは時代のニーズにも合っており評価できる。 ○新コース制に向けて教職員が一丸となって新生武蔵越生高校に大いに期待したいところである。
	多様な進路を保障し、生徒の自己実現を図る。	進路指導部を中心に大学進学相談会や模擬授業を計画的に実施している。高大連携を行い、上級学校体験をさせている。特進、特進選抜は0時間授業を実施し、特選は夏季休業中の予備校講師の授業の導入等で国公立、難関私大合格増をねらっている。	進学・進学選抜・特進には平素の選択講座の充実を図る。アスリートは実技指導の強化。長期休業中の補習のあり方を検討し、成果をあげる。年度ごとの進路結果の正確な調査と集計、蓄積を行う。キャリア教育の完成をする。	国公立大、難関私大合格者の実績が目標値を達成できたか。コースごとの進路指導テーマは目標に合致していたか。志教育に沿ったキャリア教育が完成できたか。各種ガイダンスは有効に活用できたか。	○進路相談会、27年度より実施の大学見学会等の行事については合理化ができ成功している。 ○ガイダンス、資料等のツールでの確かな情報提供ができています。 ○進路決定率は98%。 ○職業観の育成に向けたアプローチについては不十分であった。	B	○新コース制における進路指導へのメリットを研究する。 ○進路通信を発行し、情報提供するとともに進路意識の育成に努める。 ○キャリア教育年間指導計画を「志教育委員会」と連動して組み立てる。 ○学内成績、外部模試成績データの経年変化分析を共有するとともに教科会と連動し、日常の学習にフィードバックする。	○大学見学会など、早めの進路意識付けは普段の生活にも良い影響を与えらると思う。 ○将来に向けての職業観の育成は今後も追及して欲しいところである。
2	責任と礼節を重んじ、生徒の自律心を育てる。	生徒指導部を中心に全職員が挨拶や礼儀作法の指導に取り組んでいる。生徒会活動に積極的に取り組む姿勢を培っている。	挨拶、身だしなみ、マナーの指導を徹底する。リーダー研修会等にてリーダーを育成する。カウンセリングマインド等を生かし生徒理解に努める。	全職員で挨拶、身だしなみ、マナー指導の徹底ができたか。生徒会行事が整然と行われ、自治能力が高まったか。生徒理解を深め転退学防止ができたか。	○挨拶については、及第点を与えられるレベルには達している。その成果もあり、しっかりと返事のできた卒業式が出来ていた。 ○公衆マナーについては更なる指導が必要であった。 ○自治活動については大いに前進している。	B	○朝SHRでの挨拶指導を皮切りに、挨拶ナンバーワン校を目指す。 ○身嗜み指導については引き続き指導の徹底を図り頭髪服装再検査をゼロにする。 ○公衆マナーについては校外指導を不定期に行いノークレームを目指す。 ○SNSなどの被害にあわないよう情報収集に努め、生徒には折に触れ注意喚起する。 ○リーダー育成に努める。	○朝出会う生徒の多くがしっかりと挨拶をして行く。指導が行き届いていると感じる。 ○卒業式も挨拶を含めて大変良く出来ており、卒業生の笑顔が素晴らしく良い教育をしている証拠である。
3	生徒の心身を鍛え、特技や情操を高め、自治集団を育成する。	活発なクラブ活動が展開されている。各種施設訪問等での演技演奏をし、ボランティア活動の一助となっている。クラブ顧問会を行いクラブ間の連絡調整を図っている。	顧問が週一回部室点検を行うなど細やかな指導をし、さらに活発なクラブ活動が展開されるように、環境整備に努めるとともに、評価を積極的に行う。	部室、練習場の管理、整備が顧問の指導で徹底できたか。クラブ加入率90%は維持できたか。リーダー育成を図り、クラブ内規律、文武両道ができたか。	○クラブ活動の目標、活動、成果について内外へのアピールをし、愛校心を育てる活動が不足していた。 ○クラブとして清掃活動等のボランティアに目を向ける活動ができてきた。	B	○全てのクラブが年間目標を設定し、計画的に活動するとともに、その成果を内外にアピールする。 ○各クラブが文武両道をバランスよく実現するためのルール作りをする。 ○感謝する心の育成のために、積極的にボランティア活動を展開する。	○クラブ活動が大変活発で評価しているところであるが、身近なところの整理整頓にも気を配って欲しい。 ○感謝する心の育成は大切だと思う。
4	父母の期待、地域の信頼に応える全人的視野に立った教育を行う。	保護者会で活動報告を行い、協力要請をしている。地域活動に積極的に参加し、交流を図っている。体育祭・ウォークラリー等、学校行事への保護者の出席、関心が高い。	PTA 活動をベースに、学校と家庭の連携をとる。同窓会の活性化を図る。地域での生徒の活動、中学校との連携を十分にとる。生徒募集活動においても本校教育理念をより訴えていく。	PTA、後援会、同窓会の活動の活性化が保護者、卒業生の学校への信頼の一助となっているか。地域、中学校との交流、連携がとれているか。	○PTA、後援会活動については学校と一体となった活動が出来ている。 ○地域との連携についても部活動を通じて交流ができています。 ○同窓会についても3年生全体に働きかけてきている。	A	○PTA、後援会活動の更なる活性化のために組織的活動を計画推進する。 ○本校卒業の教職員を中心に同窓会の裾野の開拓をする。 ○学校開放を積極的に行い、地域との繋がりをあらゆる場面で意識していく。	○PTA活動については、着実に前進しており、信頼関係が出来ている。 ○クラブが地元に出ていって祭り等でボランティアをしていると良く聞く。自慢できる活動である。

達成度 A: ほぼ達成 (80%) B: 概ね達成 (60%程度) C: 変化の兆し (40%前後) D: まだ不十分 (40%未満)